

- 1 主題名 よりよい学級に 4-(4) 愛校心
- 2 資料名 「ハッピースマイル」 出典 埼玉県道徳教材資料集「みんななかよし」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は中学年の内容項目4-(4)「先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級をつくろうとする態度を育てる」ことをねらいとしている。低学年では、4-(4)として「先生や学級の人々を敬愛し、学級の生活を楽しくする」であり、低学年の「学級を楽しくする」という部分が、中学年では、「みんなで協力し合って楽しい学級をつくろうとする態度」に変わっている。中学年では、学校生活をよりよいものにするため、より積極的に行動することを重視している。学校という集団の中で、自分の役割と責任を自覚し、よりよい学級をつくっていこうとする児童の育成をめざすものである。高学年では、「先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくる」として4-(6)につながっていく。

学校生活が、明るく楽しいものであることは、児童にとってかけがえのないことである。学級での様々な学習や体験を通して自分の学級に愛着をもつことは、よりよい生活の基盤を築くことにつながり、学校生活をより楽しく豊かなものにする。児童が積極的に「我らの学級」をよりよくしていこうとする態度を育てていきたい。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、明るく素直である。休み時間は、男女を問わず仲良く遊ぶことができる。

一学期の学級開きでは、よい学級を目指し、学級の目標を話し合っ決めて。「思いやりを持って助け合うクラス」は、目標の一つとなり、学校生活の様々な活動を通して協力し合うこと、助け合うことの大切さを感じ取らせてきた。また、「学級の歌をつくろう」という児童の声から、学級の目指す姿や願いを歌詞に込めた歌をつくり、よりよい学級を目指そうという意識も強くなってきた。

二学期になり、さらによりよい学級にしていこうと、「学級の旗づくり」の相談をし、協力し合って作成してきたことで、学級としてのまとまりも強くなってきた。

しかし、集団生活の中で、一人一人が自分の役割や責任をしっかりと果たし、足りないところは協力し合って補っていくことがよりよい学級につながっていくことの意識はまだ薄く、係や日直等の当番の仕事を忘れたまま次の活動に取り組んでしまったり、気づいても誰も声をかけなかったりしていたことも何度か見られた。また、「〇〇さん、お願いね。」と仕事を頼むと気持ちよく取り組むことができるが、「誰か、お願いね。」という呼びかけには、進んで引き受けることに消極的であり、学級の活動にまだまだ主体的とは言えない児童もみられる。協力し、助け合うことが大切だと分かっているも、時に自分本位に考えてしまったり、具体的にどう行動に移していくことがよいのか漠然としていたりする児童もいる。

本主題に関わる児童の意識調査をしたところ、次のようであった。

<調査日 平成24年9月5日>

①4年 組のよいところはどこだと思いますか。(複数回答)

- ・元気で明るい…9人
- ・やさしい、親切…8人
- ・みんなで助け合える…7人
- ・みんなで遊べる…6人
- ・仲がよい…4人
- ・笑顔いっぱい…1人
- ・勉強を教え合える…1人
- ・最後まであきらめない…1人
- ・何でも一生懸命…1人
- ・進んで手を挙げる…1人
- ・すぐ仲直りできる…1人

②さらによい学級にするためには、どんなことをしていくとよいと思いますか。

(複数回答)

- ・進んで発表・返事・あいさつ…5人
- ・みんなでもっと助け合う…5人
- ・けんかをせず、仲良くする…4人
- ・やさしくする…4人
- ・みんなでもっと遊んだり話したりする…2人
- ・自分のことだけ考えない…1人
- ・言葉遣いをよくする…1人
- ・話をしっかり聞く…1人
- ・あきらめない…1人
- ・もっと素直になる…1人
- ・友達を大切にする…1人

③日直・給食・そうじ当番などの活動をどう思いますか。

- ・やるのが好き…23人
- ・当番だからしかたがない…1人
- ・できるならやりたくない…0人

④あなたは、他の人が当番活動をやりわすれていることに気づいたらどうしますか。

○やってあげる…3人

【理由】・かわいそうだから…1人

○声をかけて、教える…21人

【理由】・その人のため…10人

・その人がやる仕事…5人

・助け合うことが大事…2人

・協力してやるもの…1人

・クラスが困る…1人

・かわいそう…1人

○何もしない…0人

①「4年組のよいところ」の質問に対しては、「元気で明るい」「やさしい」「助け合える」「仲よし」という意見が多く、友達との関わりを大切に考え、楽しく学校生活を送っているようである。

②「もっとよい学級にするためには」では、「助け合う」「やさしくする」「仲良くする」が多く、①で答えた学級のよさをさらに伸ばしていくことが必要であり、児童にとってよい学級にするための基盤と考えていることが分かる。

③の「当番活動」では、23人(96%)の児童が「やるのが好き」と答え、積極的に当番活動をしている様子が見える。しかし、実際の生活の中では、遊びや自分の興味・関心のあることを優先してしまい、活動が疎かになってしまう場面もみられる。

④の「当番が忘れていないか」という質問に対しては、「声をかけて教える」が21人(88%)で、一人一人が責任を持って当番活動をすることが大切であり、そのことがその子のため、学級のためと考えている。協力し合うことや助け合うことの必要性を意識して教えてあげるに答えた児童は少数であった。

楽しい学校生活とは、学級内のみんなが当番活動や係活動などを協力し合い、時に不足なことは助け合いながら行うことによって支えられている。児童自身が楽しい学校生活にするために、自分に何ができるか自身で考え、実践していこうとする意欲を高め、積極的に学校生活を営む姿勢や態度を育てていきたい。

(3) 資料について

本資料に登場する「はるか」の学級では、「わたしもいい。みんなもいい。」という言葉が学級の合言葉としている。ある日、給食当番の児童が欠席し、昼休みに配膳台が片付けられずに残ってしまう。はるかは、そのことに気づきながらも昼休みに遊びに行ってしまう。5時間目に先生の言動によって自分の行動を反省し、配膳台を片付ける。そして、学級の合言葉の意味を実感するという内容である。

指導にあたっては、話し合いの視点として、「はるか」を主人公に、次の四つの場面を取り上げる。

- ① 片づけられていないままの配膳台を気にしながらも遊びにいったとき
- ② 先生の言葉にどうしていいかわからず、うつむいてしまったとき
- ③ 「わたしが片づけます。」と言って、配膳台を片づけたとき
- ④ みんなで協力しながら配膳台を片づけているとき

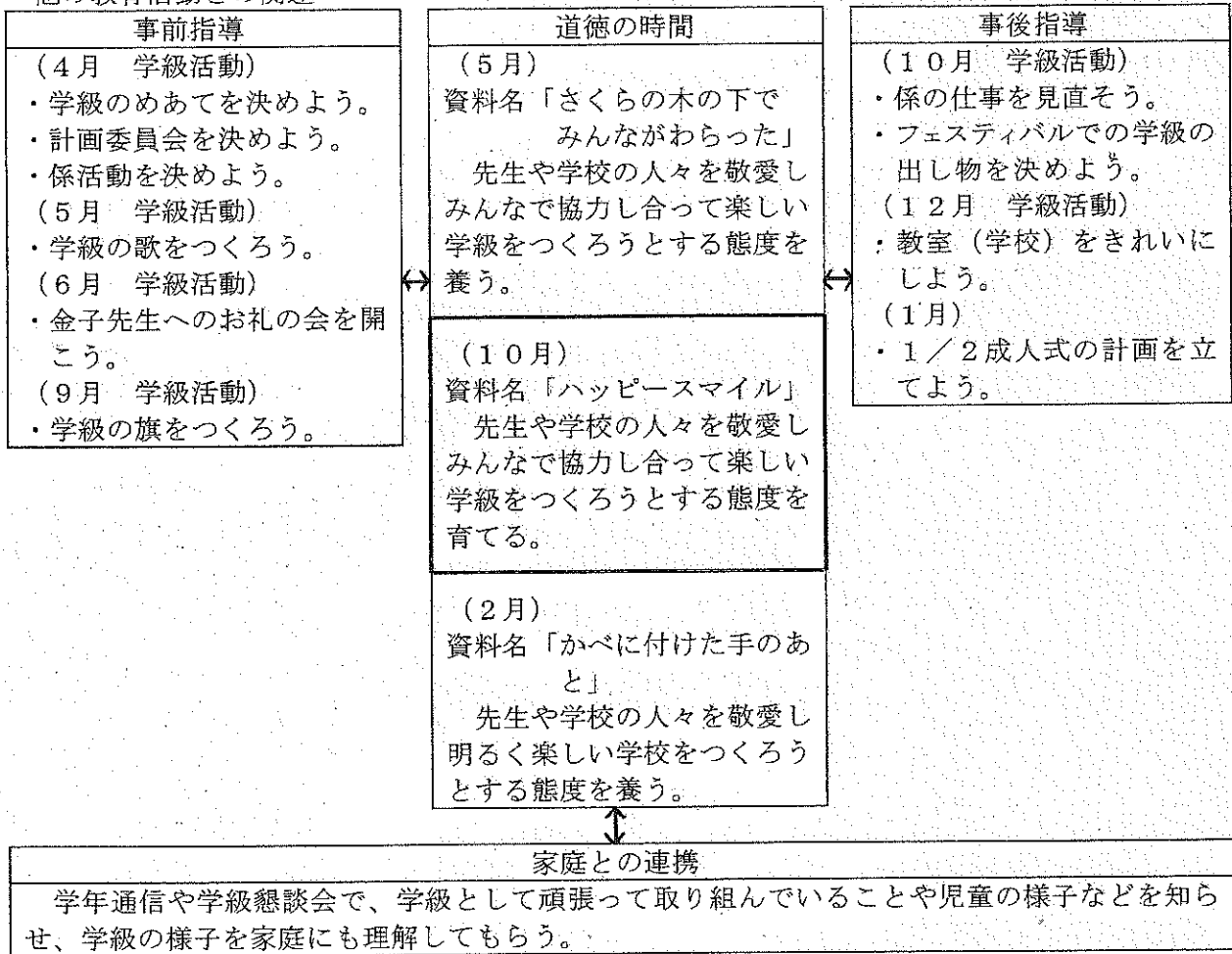
①の場面では、配膳台が片づけられていないことを気にしながらも遊びに行ってしまったときの
はるかの気持ちを考えさせ、「早く遊びたい。」「誰かが片づけるだろう。」「自分の仕事ではない。」
という気持ちに共感させる。

②の場面では、「それでいいのかな。」という先生の言葉に、どうしていいか迷うはるかの心の
内を考えさせる。「代わりにやればよかった。」という気持ちと「自分がやらなくても」という相
反する気持ちがあったことをとらえさせたい。

③の場面では、迷ったはるかが、「私が片づけます。」と言って配膳台を片づけた心を考えさせ
る。自分のことしか考えられなかったはるかが、自分を振り返り、自分たちの学級は自分たちで協
力し合って生活していくことの大切さに気づき、行動に移したことを引き出していきたい。

④の場面では、協力し、助け合いながら配膳台を片づけたはるかのすがすがしい気持ちを感じ取
らせ、学級みんながそれぞれの仕事を協力し、助け合っていくことにより支えられていることに
気づかせたい。さらに、よりよい学級にするために学級の一員としてどうすることが大切なのかを
考えさせ、よりよい学級づくりを実現しようとする態度を育んでいきたい。

4 他の教育活動との関連



5 本時の学習活動

(1) ねらい

先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級をつくろうとする態度を育てる。

(2) 展開

段階	学習活動 (主な発問)	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆評価の観点	時間
導入	1 学級の旗をつくっているときの気持ちについて発表する。	・いい旗を作りたいな。 ・いい旗を作って、もっとよいクラスにしたいな。	・もっとよい学級にするためにみんなで取り組んだことを振り返らせ、ねらいとする価値の方向付けをする。	3
と ら え る 展 開	2 資料「ハッピースマイル」を知る。 ・登場人物・条件・状況について知る。	・場面や状況を知る。	・場面絵やカードを使い、一人一人が自分の資料となるように、条件や状況をしっかり押さえる。	7
	<p>【登場人物】 はるか (主人公) 青木先生 学級の仲間</p> <p>【条件・状況】</p> <p>学級の合言葉 ハッピースマイル「わたしもいい。みんなもいい。」</p> <p>四月、笑顔でいられるようにとみんなで決めたが、二学期をすぎた最近、笑顔も少なくなってきました。</p> <p>はるかは給食当番。配膳係が欠席し、昼休みに配膳台が片づけられずに残ってしまう。はるかはそのことに気づきながらも、昼休み遊びに行ってしまう。</p>			
	・教師の範読を聞く。	・主人公の気持ちを考えながら聞く。	・登場人物の心情や気持ちがあつかめるように、問の取り方、抑揚等に留意しながら範読する。	
3 話題の整理と確認をする。 ・心に残ったことやみんなで話し合いたいところを発表する。	・係りの人がお休みしていたのだから、気づいた人が片づければよかった。 ・青木先生が「だれでもいいからおねがいね。」と言ったとき、なぜだれも片づけなかったのかな。 ・最後にみんなで片づけてよかった。	・どんなことが心に残ったのか、児童の感じ方、とらえ方を大切に、温かく受け入れる。 ・児童の発表をもとに、本時の話合いの方向を確認する。 ☆主人公の気持ちを考えてみたいと思えたか。		
4 はるかの気持ちを中心に話し合う。 (1) はるかは、どんな気持ちで片づけられていない配膳台を気にしながらも遊びに行ってしまったのでしょうか。	・面倒だな。 ・誰かが片づけるだろう。 ・配膳台を準備した人が片づけもやってくれるだろう。 ・早く外で遊びたい。 ・片づけていると、みんなから遅れてしまう。	・はるかが自分の当番の仕事をしきちんに行っていることを確認する。 ・全員で遊ぶ日だったこと、また、自分が片づけなくても誰かが片づけるだろうという考えから、気にしながらも遊びに行ってしまった気持ちに共感させる。	25	

<p>深 め る</p>	<p>(2) 「それでいいのかな。」という青木先生の言葉に、どうしていいのか分からずうっむいてしまったはるか、どんなことを考えていたでしょう。</p> <p>(3) 迷っていたはるかが、「わたしがやります。」と言って配膳台を片づけたのはどんな気持ちからでしょう。</p> <p>(4) みんなと配膳台を片づけ、笑顔が広がったのを見て、はるかはどんなことを思ったのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・係りがお休みだったのだから、代わりにやればよかった。 ・自分は当番の一人だったし、気づいていたのだからやればよかった。 ・誰かがやるだろうと人任せにしたのはいけなかったな。 ・わたしは当番の仕事をしたからいいや。 ・配膳台を準備した人がやればよかった。 ・気づいた人がやればよかった。 ・自分の学級のことだから自分でやらなければ。 ・先生に任せないで、自分にできることはやろう。 ・自分の仕事でなくても、進んでやっていきたい。 ・協力し合わないといけ無い。 ・一緒に片づけることができてよかった。 ・みんなとやると気持ちがいいし、楽しい。 ・みんなで協力できてよかった。 ・自分にできることは、進んでやっていこう。 ・笑顔が広がってうれしいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生の「それでいいのかな。」という問いに自問し、悩むはるかの心の内を考えさせる。 ・「代わりにやればよかった」という気持ちと「自分がやらなくても」という気持ちに触れさせ、誰もが思う気持ちであることを押さえる。 ☆はるかの迷う心情をとらえることができたか。 ・自分のことしか考えなかったはるかが、自分の行いを振り返り、学級のために進んで行動しようとした気持ちをとらえさせる。 ・はるかの行動によって、他の人も片づけに集まる様子を押さえる。 ・みんなで協力し、助け合うことの心地よさを感じ取らせたい。 ・みんなで協力し、助け合って活動することで、学級みんなが笑顔になれることを押さえる。 ☆学級は、みんなで協力し、できることを助け合っていくことによって、よりよい場となることをとらえることができたか。 	
<p>見 つ め る</p>	<p>5 学級のために自分ができることを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達が休んだときは、代わりに仕事をやってあげる。 ・当番活動が大変なときは手伝ってあげる。 ・友達が仕事を忘れていたときは教えてあげて、一緒にやる。 ・掃除を一緒に協力してやる。 ・勉強が分からなくて困っていたら、やり方を教えてあげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の今までの生活を振り返り、学級のために自分は何ができるかを考えさせ、ワークシートに書かせる。 ・一人一人の思いを認め、励ますことによって、よりよい学級にしようとする意欲を高める。 ☆よりよい学級にするために自分ができることを意欲的に考えることができたか。 	<p>7</p>

終末	6 あたためる 教師の話を聞く。		・数名の教師から、4年1組のよいところや課題などを録音テープで聞かせよりよい学級づくりの意欲づけを図る。	3
----	---------------------	--	--	---

6 評価

(1) 児童側からの評価

- ・主人公「はるか」の気持ちをしっかりと考えることができたか。
- ・よりよい学級にするために、みんなで協力し、助け合うことが大切であることに気づき、自分ができることについて考えを深めることができたか。

(2) 教師側からの評価

- ・ねらいとする価値に近づけるための効果的な発問をすることができたか。
- ・児童の思いを大切にし、考えを深めさせることができたか。

7 板書計画

